

踊り念仏 廻り踊り を訪ねて

「木屋の踊り念仏」は、新仏のあつた年の八月十三日、「川見の踊り念仏」は毎年八月十四日。本来は自分が極楽浄土を求めると共に変化して仏を慰めるものになった。

つるぎ町で大事に受け継がれてきた「踊り念仏」と「廻り踊り」を訪ねた。
廻り踊りは日が暮れてから始められる。踊りの開始に到着をあわせると、夕闇の山の中かなり見通しの悪い道进行することになる。

初心者の方は、明るい内に一度目的地まで走っておこう。

「浦山の廻り踊り」は年中行事として堂の護摩供養の後で行われてきた。
静かで厳かな踊り念仏と和気あいあいとした廻り踊りが対照的であった。

木屋の 踊り念仏

カメラマンたちも静かに見守る



日のすっかり暮れた木屋堂

川見の 踊り念仏

「ナムアミドーヤ」「ナモーデ、ナモーデ」と唱えながら、お堂の中を何回も回る



→ 小さな子どもたちもお堂の中で踊りを待つ

川見堂からの夕陽



踊り念仏は日の入りを待って始められる



浦山の 廻り踊り

※今年中止 (写真は去年のもの)

「音頭だし」の歌にあわせて踊る輪が広がる



地域の人が集まり、鉦の音とともに唱歌される



「音頭だし」さんが語り歌うのは十六地蔵や、貞之丞の物語など。その地域の廻り踊りにより、内容は様々。

お護摩の焚かれたタオル

廻り踊りが始まるのを待つ

